

ニューズレター

No.63

2011年 5月27日

目 次

	ページ
東日本大震災についてのアピール案	1
第8回総会案内と、議案書	2
県内自然保護ニュース	7
Scrap Book (新聞見出しから) 11月～12月	9
かながわ環境メール 11月～12月	17
神奈川県・環境関連記者発表から 11月～12月	19
神奈川県自然保護協会からのお知らせ	30

この度の東日本大震災にあたって、神奈川県自然保護協会では、役員会において下記のようなアピール案をまとめました。これを来るべき総会において、会員の皆様の賛同をいただき、協会の総意として社会に訴えたいとおもいます。

東日本大震災についてアピール

今回の東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げます。特に、原子力発電所の事故により二重に被災された方のお苦しみには言葉もありません。

翻って未曾有とも言われる今回のような地震・津波による災害は、自然の歴史の中では繰り返し起こる事であることは知られていないことではありませんでした。

今回の災害から、私たちが今更のように学んだことは、私たちは自然の中で生かされているという事実です。

人の力で自然が征服できるという思いは、例えば釜石の水深 60メートルを超える深さから築き上げた防波堤が大津波の前にはひとたまりもなかったという事実に崩れ去りました。また仙台平野に営々として作られた水田や集落は、地殻変動による地盤沈下と津波の前にはなすすべもなく失われ、今でも広い面積が海水に浸かる姿を見せています。

また、原子力発電所の事故は、被災された方々と共に、逃げるすべのない多くの生き物たちにも犠牲を強いていることを深く思いを馳せなければなりません。

一方、人類も他の多くの生き物と同じように地球上の生態系の一員として生まれ、地史的な様々な試練を受けながら、文明を進化発展させ今日の繁栄を築いてきました。

しかしながら自然の中で、私たち人類は小さな存在であり、脅威と向き合い、その恩恵を受けながら生きていることを謙虚に受け止めなければなりません。

繁栄が続いた今、私たちは自然への畏れを忘れ、おごりの気持ちが知らず知らずの内に心に宿り、私たちの未来を奪う結果になるかも知れないことに改めて気づかされました。

神奈川県では、1923年の関東大震災、1703年の元禄大地震、またそれ以前にも地震・津波の被害が繰り返し起きていたことが知られています。

更に富士山や箱根火山の噴火もありました。これらの現象の再来は今日の科学が予測しているところです。

また、過去何万年にもわたる歴史の中で、これらの事件にもかかわらず連続として続いてきた生き物、生態系の歴史があることも事実です。

今こそ原点に立ち返り、このような地球のシステムの上に生き物たちが作る生態系があり、これに依存して人間の文化が存在していることを想起すべきです。

自然との共存とは、自然を尊重し保全することと共に、私たちの生活を大地の動きの猛威から守る智慧を自然の営みか